

# 第7回学術集会報告

第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 山縣 邦弘

筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学 教授

副会長 小林 正貴

東京医科大学茨城医療センター 病院長

平成29年2月17日、18日の2日間、つくば国際会議場にて第7回学術集会を開催いたしました。茨城県つくば市は東京から約1時間と少し離れた場所ですが、遠方にもかかわらず約1400名のご参加をいただきました。また一般演題も口演、ポスター合わせて223題と、前年度に引き続き多くのご応募をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。2年前に第7回学術集会の開催が決定してから開催までの間に、実に多くの皆様方にご支援、ご協力を賜りましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

本学術集会のテーマは「腎臓リハビリテーションの実践と創造—CKD治療の展開に向けて—」と題して、共催学会・団体とのジョイントシンポジウム（日本リハビリテーション学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本フットケア学会、日本腎不全看護学会）、シンポジウム、ワークショップ、委員会特別企画、会長講演、特別講演、教育講演、よくわかるシリーズ、How to sessionなど多数の企画を設けました。多くの職種から多角的な視点によるアプローチと展望が発表され、どの会場からも熱気と活発な討論が見受けられ

ました。平成28年度の診療報酬改訂により新規に算定された人工透析患者の下肢末梢動脈疾患重症化予防の演目も関心を集め、また特別講演では国内外で活躍される筑波大学の演者の先生方に興味深いご講演をいただきました。懇親会では茨城県の地酒と筑波大学生による演奏と共に、沢山の皆様と交歓させていただくことができました。

今回の学術集会を通して、今後は腎臓病の予防・重症化予防、さらには腎代替療法施行中の患者の予後改善実現のためにさまざまなステージにおける腎臓リハビリテーションの展開に向けてますます前進されることを切望いたします。また今回、つくば市で開催したことで、茨城県内の医療機関における腎臓リハビリテーションへの認知と関心の向上につながったという嬉しい成果があったこともご報告いたします。

最後になりましたが、本学術集会の開催の機会をいただきました事に深く感謝申し上げます。腎臓リハビリテーションの普及と進化により、本学会が益々発展いたしますことを祈念いたします。

